

HOUSE old frame

壁からの解放。

地震の多い日本で、長い間垂直面として地震に耐えてきた木造軸組構造の壁。その縛りがなくなり、重力から自由になったとき、それらはどのようなふるまいをするだろうか。それは重力から解放され、自由に動き出すかもしれない。

田の字型の家をプロトタイプとして、壁の質量を変えずに実践してみよう。

重力を担ってきた壁が自由になると、新しい可能性が見えてくるだろう。壁が折れ、曲がり、新たな領域を生み出す。その空間に人びとの営みが生まれ、壁に新たな機能が付与される。新しい壁を加えることなく出来上がった場所は、これまでの空間が持っていた潜在的な能力を開放し、不思議な浮遊感が生まれる。

すべての木造の壁たちよ、さあ今こそ開放の時だ。

Element

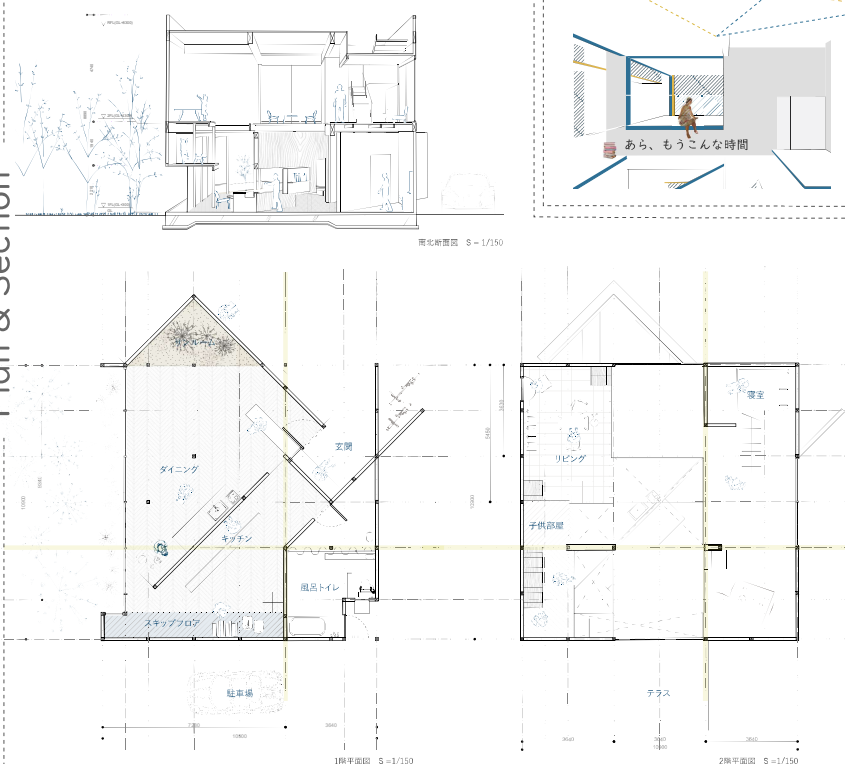


建物の領域を変える

部屋の領域を分ける

身体スケールの変形

Plan & Section



"抜け"で生活の変化を受け止める

1階の壁を折り曲げ、外壁を床にすることで、生まれた"抜け"は空間を繋ぎ合わせる。それは視線を交錯させ、コミュニケーションが生まれる。

スキップフロアから2階にかけての空間は、境界を持たないことで、住む人びとが独自の暮らしを形成しながらも、やわらかな繋がりをつくる。暮らし方を固定しないことで、時間軸による、ライフスタイルの変化を柔軟に受け入れる。

ライフスタイルに応じて柔軟に変化する壁を持つ家は、敷地、住まい手によって形を変え、増殖する。繰り返すことにより、そこにもまた、新たな空間が生まれる。

断面図 S-1/500